



南小だより

【第7号】 令和4年11月16日発行

【知育】 よく考えて勉強する子
【徳育】 思いやりのある子
【体育】 からだを丈夫にする子

さくら市立南小学校長 沼尾 昇



ふれあい体験教室を実施しました。

11月12日（土）にPTA主催により、ふれあい体験教室を実施しました。

17もの教室が開設され、子どもたちは、いろいろな貴重な体験をすることができました。どの教室も、子どもたちが夢中で取り組む姿がありました。講師の皆さんが楽しく指導をしてくださるので、子どもたちも夢中になることができました。

準備・運営をしてくださったPTAの皆様、教室で指導をしてくださった講師の皆様、大変お世話になりました。

なお、南小学校ホームページにも、この第7号を掲載しましたのでご覧ください。

スマホからは、活動の様子の下→メニューの中のお便り→令和4年第7号

開会式 サザンウィンド演奏

ニュースポーツ



消防防災体験



わりばし工作



ハーバリウム



楽器体験



全ての子どもたちに、 無限の可能性があります。

水谷 修先生（夜回り先生）の本を、私は、行き詰まったとき、元気がなくなったときに読むことにしています。すると、力がわいてきます。意欲がわいてきます。また、がんばろうと思います。水谷先生の情熱、やさしさにふれることができるからです。

水谷 修先生（夜回り先生）が書かれた論文の中から一部を紹介します。

この養護学校※に、M君という子がいました。この子は重度重複という思い障害で、身体は車椅子から動けませんし、光の明るさもわからない、目の前で手を動かしても、何の反応もない子なのです。

ところが、このM君には、ある感性がありました。養護学校※では、重度の身体障害をもつ13人の子どもたちを、男性2人と女性2人の4人の教員でみているのですが、やらなければならない仕事があふれてくると、イライラしてくることがあるわけです。教員4人の感情がぎくしゃくして、険悪な雰囲気になると、M君が「けけけけ」と笑うのです。「あ、M君が笑ってるよ。俺たちのこと心配しているんだね。もうやめようよ、仲良くやろうよ」と自然に雰囲気がなごみました。もし、この子に走ることを求めたら無理です、走れません。学ぶことや大学に行くことも求められないし、物をつくることもできないでしょう。でも、この子のもっている天性の才能というのは、まわりの人の気持ちを察することができる。察したら間髪を入れずに、喜びとか哀しみを私たちに出してくれるのです。この子が私たちのところに優しさを教えてくれる、それだけでも十分な宇宙にたった一つの存在であり、彼の才能だと思います。

私は、あのときに強く感じました、どんな子にも無限の可能性があることを。

そして教育というのは、本来、根のないところや種がないところで、無理やり伸ばそうとすることではありません。その子が自ら自分の可能性はどこにあるのか、自分の明日への種はどこにあるのか、それに気づくまで待つことです。そしてその子が気づいてくれたら、まわりに人とのいい出会い、いい本との出会い、いい授業などといった栄養分をゆっくりゆっくり与えてあげる。子どもたち自らがそれを伸ばし、花咲かせることを助けることが教育なのです。

※ 養護学校 現在は特別支援学校

